

『江陰船歌』ⁱ序

今年の八月に、半農は江陰から北京に来て、一冊の俗謡を見せて、途中水手の口から写したものだと言った。この二十篇の歌謡の中には、はっきりした地方色と水上生活の表現はないけれども、わたしの考えでは中国民歌の一部分の代表には十分なり、蒐集と研究の価値はある。

民歌 (Volkslied, Folksong) の定義は、イギリスの Frank Kidson によれば、民間に生まれ、かつ民間に通行し、それによって感情を表現したり事実を抒写する歌謡である (『英国民歌論』) ということである。ⁱⁱ 中国の叙事の民歌には、「孔雀東南に飛ぶ」と「木蘭」などの何篇しかないⁱⁱⁱ。いま流行しているのはほとんどが変形していて、芝居の影響を受けて、唄い物になっている (「孟姜女」の類)。抒情の民歌には「子夜歌」など少なからずあるが、文人の収録を経ていたので、どれもがすでに大いに修飾を加えられ、文芸の作品になっており、科学的な価値は減じている。“民間”という意味は、もともとは多数の文でない [教養のない] 民衆を指す。民歌の中の感情と事実も、この民衆の感じる感情と知っている事実であって、少数の人によってとりだされ、みんなが鑑定して広まるのだ。だから民歌の特質は、決して精彩のある技巧と思想に偏重しない。ただ本当に民間の心情を表現することができさえすれば、それが純粋な民歌である。民歌はある面ではもと民族の文学の基礎であり、もし技巧と思想において精彩があるなら、それは極めてよいことである。だがもし生まれたのがまずい措辞、卑俗な考えであっても、それはどうしようもない。われわれは「子夜歌」を賞賛するが、やはりこの水手の情歌を蔑視するわけにはいかない。この両者は同根ではあるけれども、いまではすでに分かれているのだから、われわれの態度も違って当然なのだ。

抒情の民歌の中でも、様々な区別がある。田んぼの情景と海辺とでは違う。農夫と漁師の歌もむろん違う。中国の民歌はまだ蒐集されていないので、比較のしようがないが、わたしの故郷での所見によれば、民衆の職業に区別はあるけれども、境遇がそれほど離れていなければ、歌謡でも何の違いも出てこない。農夫が歌うのはみな“鸚哥戲” [鸚鵡戲] の断片で、様々な種類の労働者もそうである。この鸚哥戲はもともと墮落した農歌に、上演を加えたもので、名前も

“秧歌” [田植え唄] の訛りである。この小事は、中国の多くの地方の歌謡が、どうしてもはっきりした特別の色彩がなく、思想言語が粗野なのを免れないのかという理由をととてもよく説明している。

民歌の中心思想がもっぱら恋愛にあるのも、ごく自然なことである。だが詞意にはなかなか高下がある。だいたいあまり高明でない民歌は、民俗学の研究にとっては、同じように有用だけれども、文芸あるいは道徳からすれば、どうしても非難される所がある。紹興の“秧歌”の上演は、禁止の列に入り、江蘇浙江に通行する印刷本の『山歌』も排斥された。この冊子に選ばれた二十篇は、もともと著録されたことがない山歌で、こうした欠点を免れ難い。民間の原人の道徳思想は、もともと極めて簡単で、怪しむにたりないと思う。中国の特別の文字は、とりわけこうした現象の大原因を成している。長らく蔑視されてきた俗語は、文芸上の運用を経ていず、細やかな表現力を欠いている。簡潔高古な五七言の句法は、民衆詩人の手には、これまた極めて不便

で、かの幼稚な文体に変わってしまい、おまけに意味までが巻き添えをくってしまう。アメリカのヘッドランド (Headland) の『儒子歌図』^{iv}と、日本の平沢平七 (H. Hirazawa) の『台湾の歌謡』^vの訳文を見るに、多くが原文よりも明瞭優美である。これは翻訳界において滅多にない事であるが、しかしながら実在する事である。だからわたしは釈明しなければならない、中国の情歌の悪い所は、大半が文詞の関係によるのだと。もし誰かがそれを「妹相思」^{vi}などのように改作したなら、古人の詩話に収められないことはなかったろう。だがわれわれに必要なのは“民歌”であり、民俗研究の資料であって、純粋な抒情あるいは教訓詩ではない。したがってどんなに粗野であっても、すべて蒐集保存しなければならない。半農のこの一卷の『江陰船歌』は、分量は少ないけれども、中国民歌の学術的採集の上で最初の成績である。われわれは彼の成功を喜び、さらに今後のこうした著述の公表が多く出て、“社会の柱”である民衆の心情をわれわれが理解できるようになることを希望する。これの有益な所は広くあまねく、研究室の一隅に限らない。だからわたしは鑑賞の眼光をもって民歌を批評する態度には反対だけれども、この小集を公刊して、わずかだが同国人の自己省察の資料とすることには極めて賛成である。

中華民国八年九月一日。

※初出：1920年4月『學藝雜誌』第1巻第2號 1923年1月『歌謡』第6号

ⁱ 『江陰船歌』 『歌謡』第24号に劉半農の注釈と常恵の補記をつけて発表された。

ⁱⁱ Frank Kidson (1855～1926) イギリスの歌謡蒐集者、音楽学者。『英国民歌論』“English Folk-song and Dance” Frank Kidson and Mary Neal. Cambridge U.P. 1915, 1 Definition p. 10.

ⁱⁱⁱ 「孔雀東南に飛ぶ」「木蘭」前者は「焦仲卿の妻の為に作る」と題して『玉台新詠』に収めるが、後の「子夜歌」なども含めて『樂府詩集』に見られる。

^{iv} 『儒子歌図』 Isaac Taylor Headland (1859～1942) アメリカの宣教師。“Chinese Mother Goose Rhymes” Fleming H. Revell Co. New York, 1900.

^v 『台湾の歌謡』 『台湾の歌謡と名著物語』平沢丁東編 台北晃文館 1919.

^{vi} 「妹相思」 王士禛『池北偶談』卷十六「粵風続九」に友人が記録したものから再録すると言ってこの歌詞を書き留めている。この民歌は今でも歌われている。